

新たに製作した部品を用いて仮組立を行う関係者

小松市の県こまつ芸術劇場つらら



小松・寺町 突風で屋根損壊

曳山修復に 美川仏壇の技

小松市寺町曳山保存会は二日までに、今年五月のお旅まつり期間中に屋根の一部を破損した同町所有の曳山の修復に乗り出した。曳山は、くぎを一本も使わない技法で作られており、同じ特徴を持つ美川仏壇の職人の協力を得る。同保存会の徳海新設委員長は「来年のお旅まつりで、よみがえった曳山を披露したい」としている。

現在、中心市街地には寺町をはじめ八町に曳山が一

基づつ保存されている。寺町の曳山は、大聖寺藩十代藩主前田利極の正室桃御殿寿正院にその素晴らしさが認められ、曳山の四隅に付ける装飾品「宝鐸」が贈られたとの言い伝えがある。寺町の曳山を収納する仮設小屋は五月のお旅まつり開催期間中、突風で倒壊した。このため、小屋の支柱が曳山の下屋根左前部分に

接触し、屋根の木材が折れたり、ひびが入るなどの被害が出た。寺町の住民は来年も祭り本番で最高潮を迎える曳揃えに例年通り参加するためにも修理を決め、九月に美川仏壇の職人である北島仏壇店(白山市)の四代目、北島昭浩さん(四三)に修理を依頼した。二日は県こまつ芸術劇場つららで仮組立が行われ、新たにキリとアオモリクサマキの木材を使って製作した屋根の左前部分と本体がうまく接続するかの確認作業が進められた。新しい部品は白木の状態で何度も微調整し、その後、漆塗りや金箔での装飾を施す。

くぎ使わず 来年のお旅で披露